

2026年「伊勢」と日本スタディプログラム 最終レポート

伊勢市および皇學館大学のご招待に、心より感謝申し上げます。三重県伊勢市で過ごした三週間は、私にとって忘れがたい時間となりました。伊勢を訪れるのは今回が初めてであり、また東京以外の場所で、地域の住民と観光客のあいだのような立場で、これほど長く一つの町に滞在したのも初めての経験でした。

伊勢に到着したとき、まず感じたのは「静けさ」でした。駅を出て、駅前の神社を通り、外宮参道を歩いていくうちに、神道の信仰と長い歴史が重なり合った独特の重みが、次第に身近に感じられるようになりました。伊勢の天気は晴れたり雨が降ったりと変化に富んでおり、晴天、曇天、雨の日それぞれの街の表情を見ることができましたが、どの風景にも共通して、心が落ち着くような静かな安らぎがありました。

授業が進むにつれて、伊勢の歴史への理解が深まり、この土地において神道がどのように発展し、受け継がれてきたのかをより実感できるようになりました。参拝の作法や地域の文化人、そしてそれらがどのように調和しながら日本人の精神的な拠り所を形づくってきたのかについて、多くの新しい気づきを得ることができました。

江戸時代には「一生に一度は伊勢神宮へ参るべし」と言われ、最盛期には六人に一人の日本人が伊勢神宮を訪れたとも伝えられています。中には半年もの時間をかけて徒歩で参拝した人々もいたそうです。千年にわたる歴史が、この場所に特別な荘厳さを与えているのだと感じました。内宮を参拝した日には、多くの参拝者でにぎわっていたにもかかわらず、不思議なほど静かな空気に包まれていました。その瞬間、誰もがそれぞれ自分自身と向き合っていたのではないかと思います。

二日間にわたる熊野古道での研修も、非常に印象に残っています。熊野本宮大社を参拝した際、神職の方がお話しされた言葉が心に深く残りました。私たちは世界各地からここに集うことができたが、平和は決して当たり前のものではなく、これからも世界の平和と人類の持続的な繁栄のために、それぞれが努力していくことが大切だという内容でした。この言葉を通して、旅や学びの意味について改めて考える機会となりました。

三週間はあっという間に過ぎていきました。伊勢の歴史や文化への理解を深めることができただけでなく、さまざまな国から来た参加者たちと交流し、多くの対話を重ねられたことは、私にとってかけがえのない経験となりました。今後再び全員が集まる機会は少ないかもしれませんが、それぞれが伊勢で受け取った温かな記憶を胸に、自分の道を歩んでいけたらと思います。

東京や大阪のにぎやかさと比べると、ここでは静けさこそが日常であるように感じられました。観光客の姿はあるものの、街中では若い世代の姿が多いとは言えず、地方都市が直面している少子高齢化の課題を実感する場面もありました。長い歴史を持つこの町が伝統を守りながらどのように新たな活力を生み出していくのか、また世代を超えた交流をどのように育ていけるのかは、今後私自身も考え続けていきたいテーマです。

ある日、私は一人で自転車に乗り、大湊町まで足を延ばしました。海辺には人影がなく、宮川が静かに海へと流れ込んでいました。すべてが永遠の静けさへと溶け込んでいくように感じられたその瞬間、伊勢で過ごした時間が、すでにかげがえのない記憶になっていることを実感しました。

非常感谢伊势和皇学馆大学的邀请。在三重县伊势市度过的三周时光令我难以忘怀。这是我第一次来到伊势，也是第一次在东京之外，以介于当地居民与游客之间的身份，在一座城市停留如此之久。

初到伊势时，我对这座城市的第一印象是安静。从车站走出，穿过站前的神社，沿着外宫参道前行，神道信仰与历史沉淀交织而成的厚重感渐渐扑面而来。伊势的天气时晴时雨，因此我得以见到晴天、阴天与雨天不同面貌的街道；然而无论哪一种景象，都带来一种出乎意料的平静与安宁。

随着课程的推进，我逐渐加深了对伊势历史的理解，也更加认识到神道信仰如何在这片土地上发展与传承。从参拜礼仪，到当地文人与文化传统，再到这一切如何恰到好处地共同构筑起日本人的精神家园，都让我产生了新的思考与体会。

江户时代曾有“一生至少要参拜一次伊势神宫”的说法。据记载，在鼎盛时期，每六个日本人中便有一人造访过伊势神宫，其中不乏耗费半年时间徒步前来的信众。如今回想，这种信仰的力量并非没有缘由——千年的历史积淀赋予了这里独特的庄严。参拜内宫的那一天，与我们一样慕名而来的游客众多，本应热闹的环境却异常安静。我想，在那一刻，人们或许都在与自己的内心对话。

为期两天的熊野古道研修同样令人印象深刻。在参拜熊野本宫大社时，祭司的一番话让我深受触动：我们从世界各地顺利相聚在这里，但和平从来不是理所当然的存在，应当继续为世界的和平与人类长久的繁荣贡献自己的力量。这句话让我重新思考了旅行与学习的意义。

三周时光转瞬即逝。除了深入了解伊势的人文历史，我也与来自不同国家的同学们进行了许多交流与对话，这对我而言是一段极为珍贵的经历。或许未来我们难以再次相聚，但希望大家都能带着在伊势获得的祝福，在各自的人生道路上坚定前行。

与东京、大阪的喧嚣与繁华相比，安静似乎才是这里的日常。除了往来的游客，街道上年轻的面孔并不多见，这也让我隐约感受到地方城市正在面对的人口老龄化课题。如何让这座拥有千年历史的古城在传承传统的同时重新焕发生机，如何促进不同世代之间的交流与连接，也逐渐成为我今后希望持续思考与探索的方向。

有一天，我独自骑车前往大湊町。海边空无一人，宫川奔流入海，一切归于永恒的宁静。那一刻，我感到这段在伊势的时光，已悄然成为记忆中不可替代的一部分。